

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成26年3月20日(2014.3.20)

【公表番号】特表2013-518617(P2013-518617A)
 【公表日】平成25年5月23日(2013.5.23)
 【年通号数】公開・登録公報2013-026
 【出願番号】特願2012-551379(P2012-551379)
 【国際特許分類】

A 6 1 J 17/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 J 17/00 Z

【手続補正書】

【提出日】平成26年1月31日(2014.1.31)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

所定の幅を有し、比較的硬い同一材料でできており、所定の間隔を空けた上位部および下位部を含む外殻であって、前記上位部および下位部の間に位置し、前記上位部および下位部の異なる位置で当該上位部および下位部を相互に連結し、前記上位部および下位部の材料より柔軟なエラストマーでできた第 1 および第 2 端部を含み、囲われた内部を形成している外殻と、

前記外殻の内部に位置し、前記外殻の上位部および下位部より柔軟な内側部弾性材料を含む内側部であって、前記内側部弾性材料の量は前記外殻の幅全体にわたって異なり、前記外殻の幅全体にわたってさまざまな圧縮性を実現する内側部において、前記外殻の内部に 1 つまたは 2 つ以上の囲われた空隙が位置している内側部と、

を含むことを特徴とする可変応答性おしゃぶり。

【請求項 2】

おしゃぶりの復元応答が、前記外殻に加えられた力の速度に比べて遅れることを特徴とする、請求項 1 に記載の可変応答性おしゃぶり。

【請求項 3】

おしゃぶりの復元応答が、前記外殻に加えられた力の速度にほぼ等しいことを特徴とする、請求項 1 に記載の可変応答性おしゃぶり。

【請求項 4】

おしゃぶりの材料および構造が、加えられた外力に対してバネおよび減衰性の応答を示す粘弾性モデルに、少なくとも部分的に基づいて選ばれることを特徴とする、請求項 1 から 3 のいずれかに記載の可変応答性おしゃぶり。

【請求項 5】

おしゃぶりの粘弾性応答が、2 つの異なる外力に対して異なって応答するように設計されていることを特徴とする、請求項 4 に記載の可変応答性おしゃぶり。

【請求項 6】

少なくとも外側部が軸を中心に回転することができることを特徴とする、請求項 1 から 5 のいずれかに記載の可変応答性おしゃぶり。

【請求項 7】

主体および当該主体の周りを回転することができるリングをさらに含むことを特徴とす

る、請求項 6 に記載の可変応答性おしゃぶり。

【請求項 8】

異なる角度のある表面を形成していることを特徴とする、請求項 1 から 7 のいずれかに記載の可変応答性おしゃぶり。

【請求項 9】

前記角度のある表面が、少なくとも 1 つの山部と少なくとも 1 つの谷部によって作られていることを特徴とする、請求項 8 に記載の可変応答性おしゃぶり。

【請求項 10】

前記内側部が約 25 A の硬度を有し、前記外殻上位部および下位部が約 50 A の硬度を有することを特徴とする、請求項 1 から 9 のいずれかに記載の可変応答性おしゃぶり。

【請求項 11】

圧縮力に対するおしゃぶりの応答を判定するために特定の食料を試験することと、当該試験により得られた結果を用いて、おしゃぶりの力に対する応答性を判定することと、

を含むことを特徴とする、可変応答性おしゃぶりの設計方法。

【請求項 12】

請求項 11 の方法によって設計された可変応答性おしゃぶり。